

2024年（令和六年） 12月6日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iecej.or.jp>

■ 概況

当週(11月28日～12月4日)の国際石油市場は、OPECプラスの閣僚会合の延期・増産再延期観測、イスラエルとヒズボラの停戦合意違反、米中の経済指標等の要素を巡り、不安定な動きを示した。

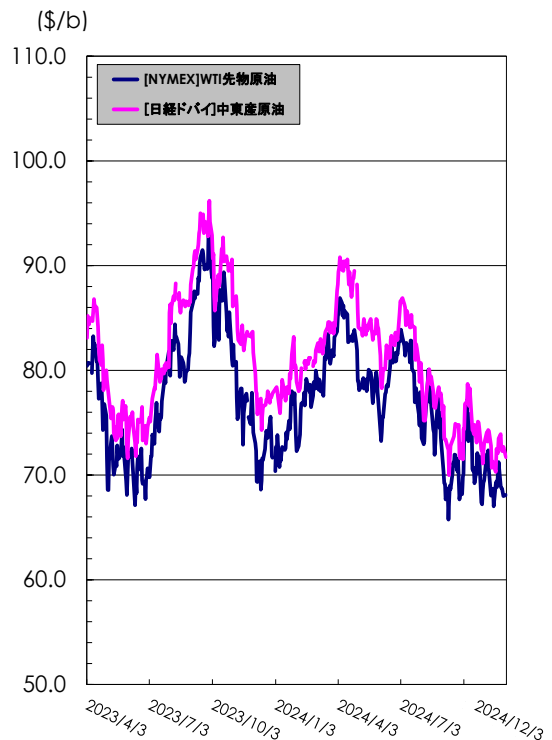
NYのWTI原油先物市場は、28日休場で、週末29日4営業日続落の68.00ドルで始まり、12月2日は小幅反発の68.10ドル、3日は続伸の69.94ドル、4日は3営業日ぶりの反落68.54ドルで終わり、70ドル目前の水準で推移した。

また、中東産ドバイ原油/東京市場(1月渡し)も、前週(11月21日～27日)は72.10～73.90ドルの範囲で推移したが、当週は、11月28日72.30ドル、29日72.70ドル、12月2日71.90ドル、3日71.70ドル、4日73.30ドル。

対ドル為替レート(TTM)は前週(11月21日～27日)152.88～155.13円の範囲で推移したが、当週は、11月28日151.77円、29日150.74円、12月2日150.22円、3日149.96円、4日149.82円となった。

そのような中で、12月2日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.5円高、軽油も同0.5円高、灯油は同7円高(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は175.4円となった。12月5日～11日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は15.2円(補助金がない場合の次週予想価格190.0円で、168円から185円の補助率60%支給部分10.2円、185円を超える補助率100%支給部分は5.0円)と、前週比1.1円の減額となった。

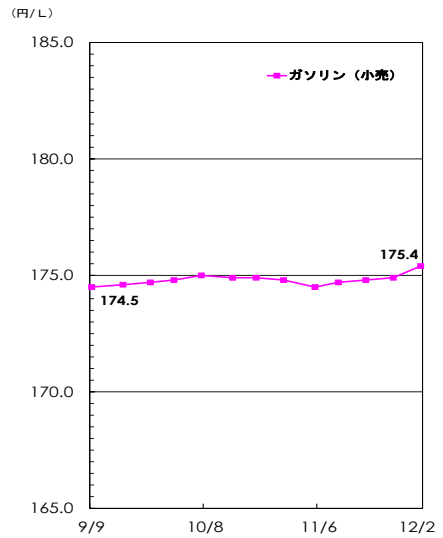
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/24～11/30	2,761 ▲15	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	79.8 ▲0.5	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	11/30	9,550 ▼-290	▼ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	12/2	71.90 ▼-2.00	▼-7.8
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	12/3	68.10 ▼-0.84	▼-4.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	11月上旬	78.73 ▼-0.91	▼-15.17
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	74,820 ▲182	▼-13,971
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	151.10 ▼-2.10	▼-0.77
	外国為替TTSレート (¥/\$)	12/2	151.22 ▲4.03	▼-3.82



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/24 ~ 11/30	825 ▲ 20	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	894 ▲ 356	▲ -
	輸出	"	75 ▼ -34	▲ -
	在庫	11/30	1,771 ▼ -145	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/26 ~ 12/2	80.0 ➡ 0.0	▲ 1.0
		(TOCOM/中部) 12/2	84.0 ➡ 0.0	▲ 5.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 12/2	175.4 ▲ 0.5	▲ 0.7

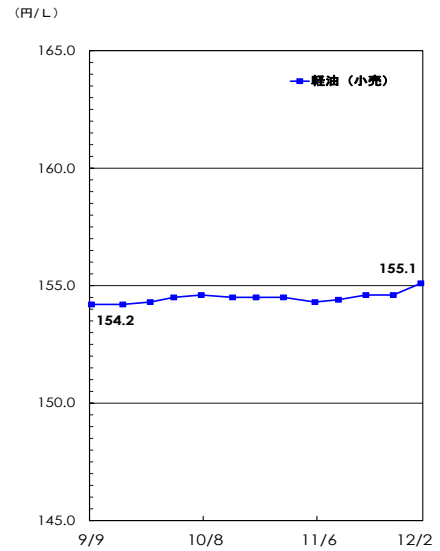
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

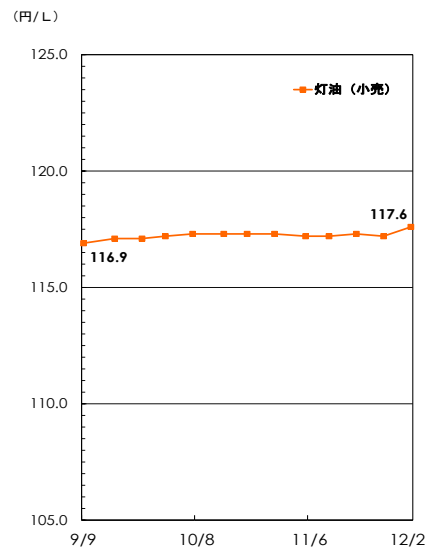
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/24 ~ 11/30	685 ▼ -51	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	611 ▲ 23	▲ -
	輸出	"	76 ▼ -26	▲ -
	在庫	11/30	1,574 ▼ -2	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/26 ~ 12/2	83.0 ▲ 0.5	▲ 2.2
		(TOCOM/中部) 12/2	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 12/2	155.1 ▲ 0.5	▲ 0.8

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	11/24 ~ 11/30	294 ▼ -2	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	319 ▲ 79	▲ -
	輸出	"	15 ▼ -76	▼ -
	在庫	11/30	2,651 ▼ -40	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/26 ~ 12/2	80.0 ➡ 0.0	▲ 2.0
		(TOCOM/中部) 12/2	85.0 ➡ 0.0	▲ 5.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 12/2	117.6 ▲ 0.4	▲ 1.4



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週(11/21～11/27)のNYMEX・WTI先物市場は68.72～71.24ドルの範囲で推移した。

当週、11月28日は、感謝祭の休日につき休場。

休日明け週末29日は、薄商いの中、利益確定売りで、4営業日続落した。また、12月1日開催予定のOPECプラスの閣僚会合は6日に延期が発表された。1月物終値は同0.72ドル安の68.00ドル。

週明け2日は、中国の11月の製造業景況指数が、市場予想を上回る好調で、景気回復期待があり、また、停戦合意が結ばれたイスラエルがレバノンの親イラン武装組織ヒズボラに停戦違反があったとして空爆し、緊張が高まり、わずかながら5営業日ぶりに反発した。1月物終値は同0.10ドル高の68.10ドル。

3日は、OPECプラスは、25年1月より予定していた自主減産の緩和(＝増産)を延期するとの観測、イスラエルとヒズボラの停戦の行方への懸念で、大幅に続伸した。1月物終値は

同1.84ドル高の69.94ドル。

4日は、朝方、OPECプラスの増産再延期観測で、買いが優勢であったが、直近時点での高値の利益確定売りによって、3営業日ぶりに反落した。なお、米国石油在庫週報で、原油は取り崩されたものの、ガソリンは積み増され、結果はまちまちだった。1月物終値は同1.40ドル安の68.54ドル。

2 海外/米国石油市場

12月4日発表の29日時点の米国石油在庫は、原油在庫は前週比510万バレル減と市場予想以上の取り崩しだったものの、ガソリン在庫は240万バレル増と市場予想以上の積み増しとなった。

EIAによると12月2日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比1.0セント安の1ガロン3.034ドル(121.1円/ℓ)と7週連続の値下がり、ディーゼル小売価格は、前週比0.1セント高の1ガロン3.540ドル(141.2円/ℓ)と2週連続の値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、11月29日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比2基減の477基となった。

3 国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年11月24日～11月30日に休止したトッパー能力は19.5万バレル/日で、前週に対して0.1万バレル/日減少した(全処理能力は311.0万バレル/日)。原油処理量は276.1万klと、前週に比べ1.5万kl増加。前年に対しては12.5万klの減少。トッパー稼働率は79.8%と前週に対して0.5ポイントの増加、前年に対しては0.5ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、A重油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/2.5%増、ジェット/10.9%減、灯油/0.5%減、軽油/6.9%減、A重油/16.8%増、C重油/11.1%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比横ばい)。軽油の輸出は7.6万kl(前週比2.6万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてジェット、C重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではジェット、C重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は89.4万kl(対前週66.2%増)と3週振りに増加した。ジェット4.5万kl(対前週13.3%減)、灯油31.9万kl(対前週32.5%増)、軽油61.1万kl(対前週3.9%増)、A重油24.0万kl(対前週24.0%増)、C重油7.2万kl(対前週38.0%減)。

(単位：千L)

	今週 (11/24～11/30)	前週 (11/17～11/23)	前週比
ガソリン	894	538	▲ 356 (66%)
ジェット燃料	45	51	▼ -6 (-12%)
灯油	319	240	▲ 79 (33%)
軽油	611	588	▲ 23 (4%)
A重油	240	194	▲ 46 (24%)
C重油	72	116	▼ -44 (-38%)
合計	2,181	1,727	▲ 454 (26%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

4 国内/製品在庫量

11月30日時点の在庫は、全ての油種で取り崩しとなった。前年に対しては灯油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは177.1万kl、前週差14.5万kl減。前年に対しては12.7万kl多い。

灯油は265.1万kl、前週差4.0万kl減。前年に対しては17.0万kl少ない。

軽油は157.4万kl、前週差0.2万kl減。前年に対しては24.5万kl多い。

A重油は74.3万kl、前週差2.8万kl減。前年に対しては3.3万kl多い。

C重油は162.6万kl、前週差3.4万kl減。前年に対しては20.1万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (11/30)	前週 (11/23)	前週比
ガソリン	1,771	1,916	▼ -145 (-8%)
ジェット燃料	823	848	▼ -25 (-3%)
灯油	2,651	2,691	▼ -40 (-1%)
軽油	1,574	1,576	▼ -2 (-0%)
A重油	743	771	▼ -28 (-4%)
C重油	1,626	1,660	▼ -34 (-2%)
合計	9,188	9,462	▼ -274 (-2.9%)

5 国内/元売会社製品卸価格

11月26日～12月2日のドル建て中東原油価格は前週比値下がりし、為替レートも円高が大きく進み、元売会社の卸建値は値下がりしたものと見られる。補助金は減額されたものの、12/5～12/11の実質卸価格は値下がりとなる模様。

6 国内/製品小売価格

12月2日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円高の175.4円、軽油も同0.5円高の155.1円、灯油は18%ベースで同7円高の2,117円(1%ベースでは0.4円高の117.6円)。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油は2週ぶりの値上がり、灯油も2週ぶりの値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが33都道府県、横ばいは3県、値下がり11府県だった。全国最安値は岩手県の169.2円、その次は徳島県の170.4円であった。他方、最高値は長野県の185.5円。最も値上がりしたのは愛知県(同2.9円高)、最も値下がりしたのは長崎県(同1.0円安)だった。

次回調査時(12/9)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (12/2)	前週 (11/25)	前週比	直近高値
レギュラー	175.4	174.9	▲ 0.5	23/9/4 186.5
灯油	117.6	117.2	▲ 0.4	08/8/11 132.1
軽油	155.1	154.6	▲ 0.5	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2024第35号) の公表は、12/13 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保障するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。